

親子で歩く

新府城



どこから歩いてもいいよ、
みんなで本丸までの道を探してみよう！

歩くときには注意してね！

- ◎車には注意をしましょう。道をわたる時には左右をよく見ておとなの人とわたりましょう！
- ◎生えている草や木を取ったりするのはやめましょう。
- ◎火遊びはやめましょう。
- ◎ゴミは持ち帰りましょう。(落ちているゴミも拾ってね！)
- ◎おとなの人と一緒に歩きましょう。

【おとなの方へ】

新府城はみんなの大切な文化遺産です。大切にしながら散策するようにお願いします。お城ですから当然、敵の侵入を防御するために危険な構造をしている部分もあります(例えば七里岩のガケの部分など)が、お子様がそのような所に単独で行かないように、十分に注意してください。



スタート(駐車場)

スタートしてすぐに道を渡るけど、左右を確認して、おとなの人と渡ろうね。さー、いよいよ新府城(しんぷじょう)の探検(たんけん)スタートだよ!

〔おとなの方へ〕

駐車場の部分は埋め立てられていますが、実は堀の中です。水がたまっている堀だったのか、それとも湿地でぐちゃぐちゃしていたのかは分かっていませんが、新府城の北側を守るための施設だったのです。

道を渡ると右側が高く、左側が下がっているのが分かると思います。この部分が堀ということになります。左の下がったところから急に山になっていますが、これが新府城内ということですが、

ちなみに城内から堀に突出した部分が2つあり、出構(でがまえ)といいます。新府城の特徴を示す施設です。鉄砲陣地とも堀の中の水位調節ともいわれていますが、不明です。

📍 出構は2箇所あります。堀の中に突き出たものです。新府城の特徴の一つとされています。

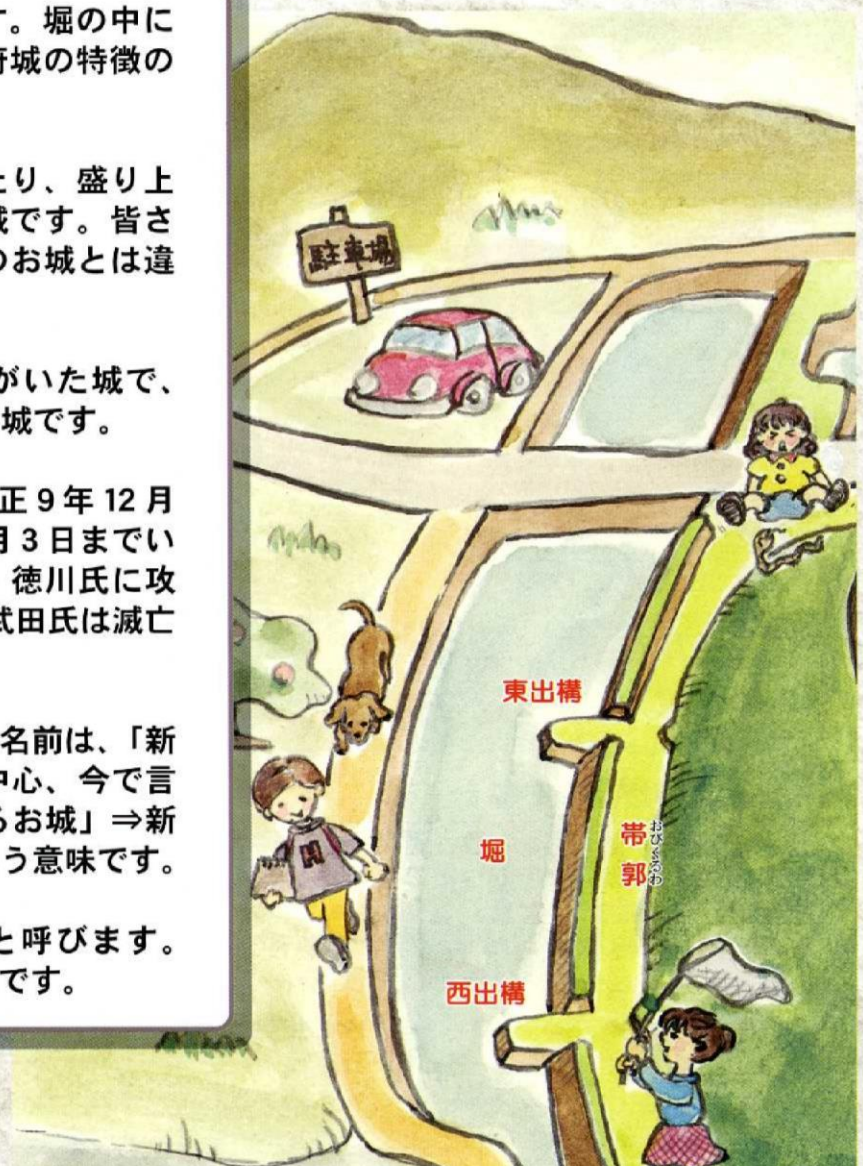
📍 新府城は土を切り取ったり、盛り上げたりしながら作った城です。皆さんのイメージする石垣のお城とは違います。

📍 武田信玄の息子の勝頼がいた城で、戦国武将武田氏の最後の城です。

📍 武田勝頼は新府城に天正9年12月24日から天正10年3月3日までいました。その後、織田・徳川氏に攻められて、3月11日に武田氏は滅亡しました。

📍 ちなみに、新府城という名前は、「新しい府中(政治経済の中心、今で言えば首都)の葦崎にあるお城」⇒新府中葦崎城⇒新府城という意味です。

*天正は「てんしょう」と呼びます。天正9年は西暦1581年です。



新府城の井戸を探してみよう！

とーっても大きな円いくぼみを探そう！ロープで囲まれているよ！
この大きなくぼみは実は井戸（いど）なんだよ。秋になるとドングリも拾うことができるよ！今年はどうかな？

【おとなの方へ】

水堀から井戸に向かう途中に新府城の北西玄関（搦手・からめて）を通ることになります。土塁（どるい）がない部分が門のあった場所になります。ここでは門の焼け落ちた状況が発掘調査で確認されました。天正10年3月3日に焼け落ちたことが初めて発掘調査で分かりました。



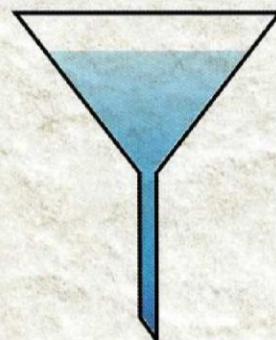
📍 まっすぐ入ることができては城としては失格です。このような構造を喰違虎口（くいちがいぐち）と呼びます。虎口は出入り口という意味です。

【おとなの方へ】

井戸は現在見るよりも、もっと深くて今の地面から約4メートル掘っても底が現れませんでした。大雨の時には水がたくさんたまったこともあるので、水のたまりやすい地形に井戸を作ったことが分かりました。



📍 山の斜面に掘られた大きな穴は、水を集めるのには最適のものです。理科の実験の「漏斗（ろうと）」のような構造です。



ほうおうさんざん 二の丸から鳳凰三山を見てみよう！

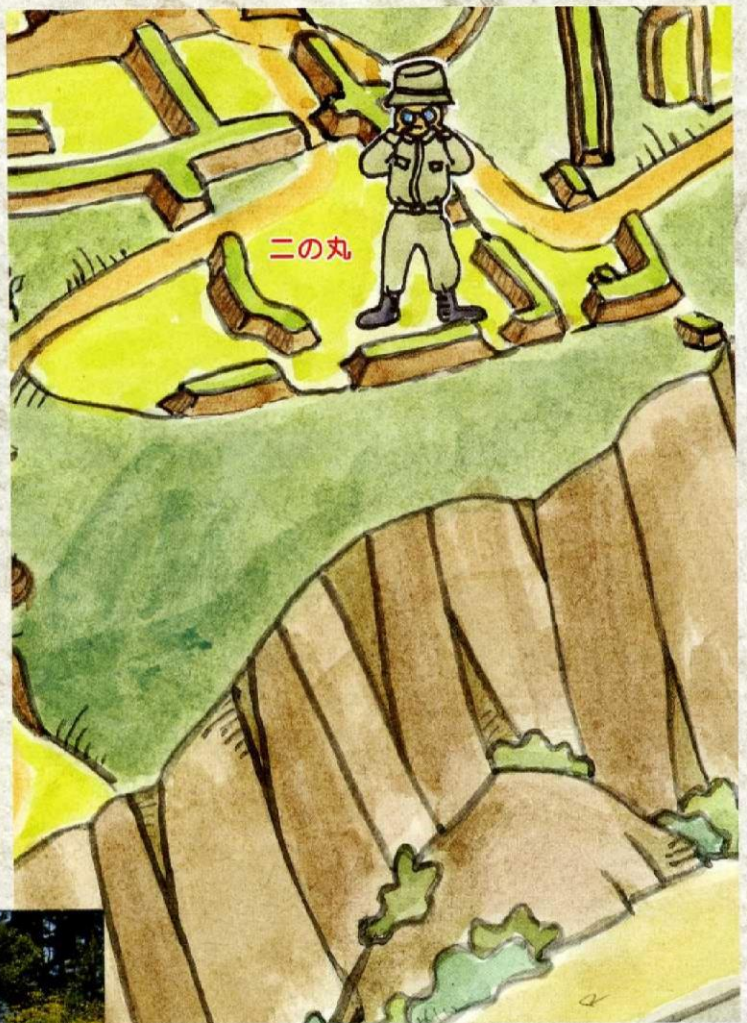
井戸から坂を上っていくと、平らな部分に出るよ、そこが二の丸だよ。山の見える方向に進むとガケがあるよ。そこからのながめは、とってもいいよ！

【おとなの方へ】

二の丸は新府城の中で2番目に高いところです。とても広い平らな場所があることが分かります。おそらく武田勝頼の夫人が息子の信勝が住んでいたのでしょう。西側の急斜面を見れば、新府城が攻めにくい城であることが分かります。

二の丸は七里岩のガケを良く見渡すことができます。城が攻略されにくい場所に作られていることが分かります。

武田勝頼の夫人は、武田氏が滅びそうな時に、「武田氏が滅びないように…」との、願いを手紙（祈願文・きがんもん）にして武田八幡宮に奉納しました。残念ながらその願いもむなしく、天正10年3月3日に勝頼は新府城をでて、田野（甲州市・旧大和村の景德院）で3月11日に自害しました。夫人はまだ18歳です。戦国の世の厳しさを改めて思い知る内容です。



二の丸に咲くオミナエシ

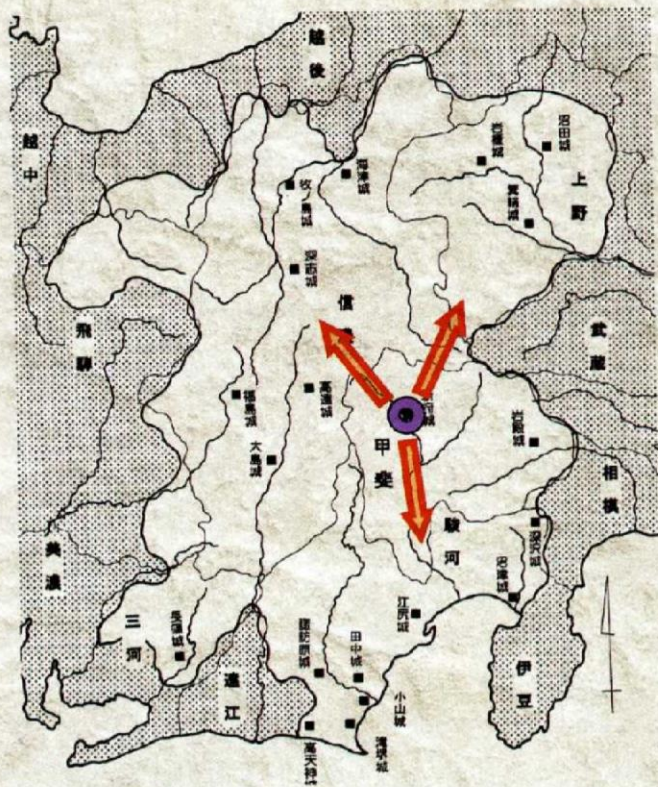
秋になると、秋の七草の一つ女郎花（おみなえし）が咲き誇ります。新府城では『萩の花 尾花 葛花 なでしこが花 をみなへし また藤袴 朝顔が花』（現在名：ハギ・ススキ・クズ・ナテシコ・オミナエシ・フジバカマ・キキョウ）山上憶良「万葉集」のほとんどを見ることができます。

新府城の頂上、本丸！

新府城の中で一番高いところ、本丸（ほんまる）だよ。ハヶ岳（やつがたけ）の見える方に行ってみよう！晴れていたらこのながめの良さを目に焼き付けておいてね！

【おとなの方へ】

本丸は当然、武田勝頼の住まいがあったと考えられます。ちなみに現在本丸にある建物は藤武神社といい、武田勝頼の住まいとは直接関係ないのでご注意ください。ハヶ岳の方を見れば、佐久往還・信州往還（往還は「おうかん」と呼びます。主要街道のことです。）を一望できることが分かります。ヒトとモノの動きが手に取るように分かる場所に新府城はあります。これは、新府城がこの場所に作られた理由の一つといえます。



🏰 新府中として韮崎を選んだ武田氏の領国は今の山梨県よりも広くて、静岡県・長野県・愛知県・岐阜県・群馬県などにまで及んでいました。

🏰 新府城は佐久・諏訪・駿河の方向を見渡すことのできる位置にあります。交通の中心にあるといえます。



本丸からのハヶ岳眺望

東と西に分かれている三の丸！

本丸の南の下にあるよ。三の丸は広いけど、まん中を土塁で仕切られているよ。土塁の途中で低くなっているところがあるよね！きっとそこが東三の丸と西三の丸との通路だったんだろうね！

【おとなの方へ】

三の丸の平坦な場所は、北側（本丸側）の山の斜面を削って、南側を埋めて平らにしたことが発掘調査で分かっています。排水施設（暗渠・あんきょ）が設置されていることも分かっています。雨で城が崩れることのないような工夫をしっかりとしているということになります。当時の土木技術は意外としっかりとしたものだといえます。

今の砂利道は武田勝頼の時代のものではなく、藤武神社を管理するために作られた新しい道です。



三日月の形をした堀を探してみよう！

丸く三日月の形をした大きな土塁を見つけることができたかな？ その下には今は水がないけど堀があるよ。土塁の形と同じで、三日月の形の堀だから、三日月堀（みかづきぼり）って呼ばれているんだ！

【おとなの方へ】

円い弧状の土塁で囲まれた場所は丸馬出（まるうまだし）と呼んでいます。武田氏の築城した城の特徴の一つといわれています。丸馬出の北側には大きな土塁で囲まれた四角い空間があります。枡形虎口（ますがたこぐち）と呼ばれていて、城の出入り口です。搦手の部分と同じように土塁の切れ目が少し喰い違っています。

三日月堀よりも下の斜面は緩やかなつくりです。本当なら、急な斜面にするか、堀を作らなければならないはずですが、今のところそのような構造を把握できるような施設は確認されていません。新府城の不思議の一つといえます。

近年、武田信玄の住んでいた甲府の躑躅ヶ崎館（武田氏館跡）でも三日月堀が発掘調査で確認されていて、新府城が作られる以前から三日月堀と丸馬出が存在していたことが分かってきました。

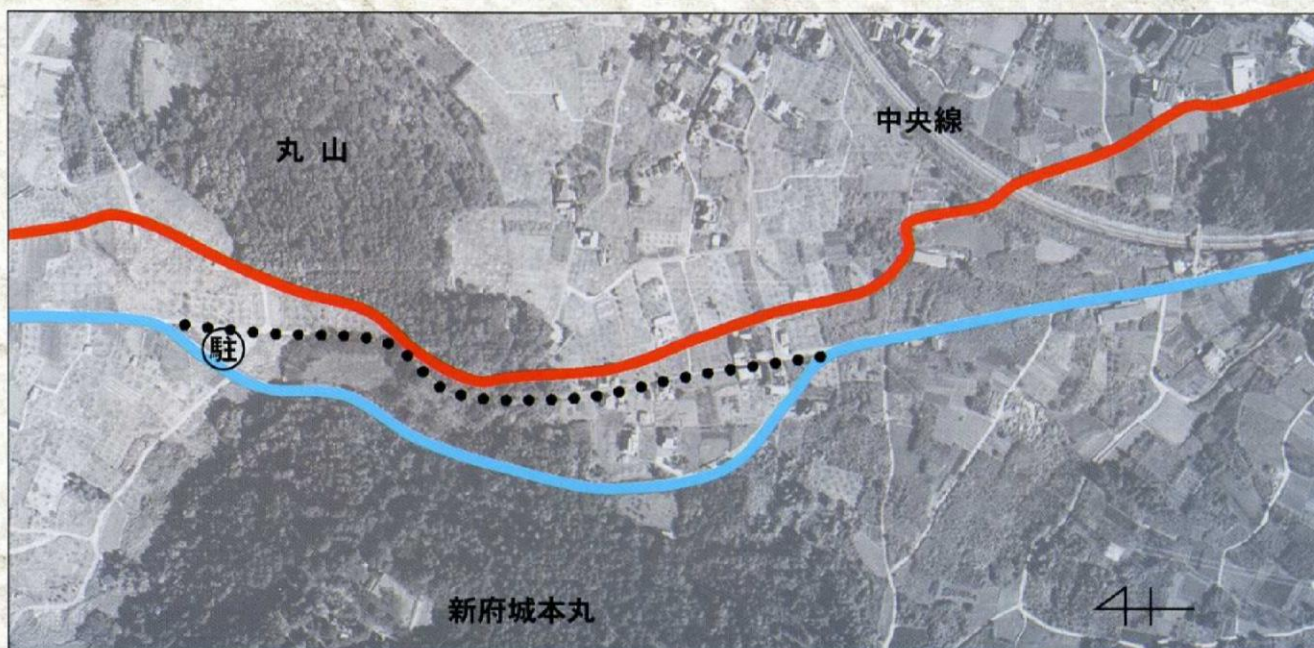


新府城の東を通る昔の道はどこだ？

昔の人はどの道をとって、新府城に来たのかな。車の走っている広い道は武田勝頼さんがいた頃にはなかったんだよ。下の写真をみながら探してみよう！

[おとなの方へ]

現在の広い道は昭和の初め頃に新府城の一部を壊して作られたものです。それ以前はもう少し狭い道でした。さらに古い道があるのですが、現在道としては使われていないようです。航空写真を見ると、昔の道がよく分かります。武田勝頼が新府城に入城するときには、金銀ちりばめた籠など絢爛豪華だったことが書かれています。今は廃れてしまった古い道を通ったのかもしれませんが。この古い道は原路（はらじ）と呼ばれていて、七里岩台地上の甲州街道です。



赤い線：古い甲州街道（原路）

黒い点線：明治8年頃工事

青い線：昭和13年頃工事

新府城のことをもっと知りたい時は？

自分でまず、調べてみよう！図書館や民俗資料館でも新府城のことを知ることができるよ！本で調べたり、模型を見たり、いろいろ調べてみようね。

【おとなの方へ】

お子様のお持ちになった疑問などは、ご家族でお子様と一緒に図書館や民俗資料館で調べてみてください。なお、教育委員会では学校等の課題について、その調べ方の助言をしています（課題の答えについては、控えさせていただいております）。

新府城は現在「史跡 新府城跡」が正式な名称ですが、本書では分かりやすいように「新府城」としました。

●図書館にある新府城のことが書いてある本

『定本山梨県の城』・『韮崎・巨摩の歴史』・『戦国の猛虎 武田信玄』・『新府城と武田勝頼』・『戦国の浪漫 新府城』・『風林火山の世界 新府城と武田の里』・『武田勝頼のすべて』・『山梨県史』・『韮崎市誌』・『甲斐国志』など

●民俗資料館にある新府城についての展示

「新府城跡の模型」・「新府城のイメージ模型」・「新府城跡発掘調査出土遺物」など



新府城は石垣を使わない頃のお城だったんだよ！もちろん天守閣もなかったんだってさ！知らないことも多いよね、これからもっと歩いてたくさん不思議なことを探してみようよ！

そうだね！歴史のことだけじゃなくて、いろいろな植物や昆虫のことなんかも調べても面白そうだよ！あと、これからの発掘でどんなことが分かってくるのかも楽しみだね！

新府城のこと知っているつもりだったけど、知らないことが意外と多かったな～。また、みんなで新府城へ探検に行こうね！



親子で歩く新府城

平成19年 発行

発行機関：韮崎市・韮崎市教育委員会

編集：韮崎市教育委員会 教育課 生涯学習担当

印刷・製本：有限会社タクト

*個人的な利用を除き、許可なしでの複写・転載を禁じます。